

# 東京大学（本郷）弥生地区分生研・農学部総合研究棟地点の成果

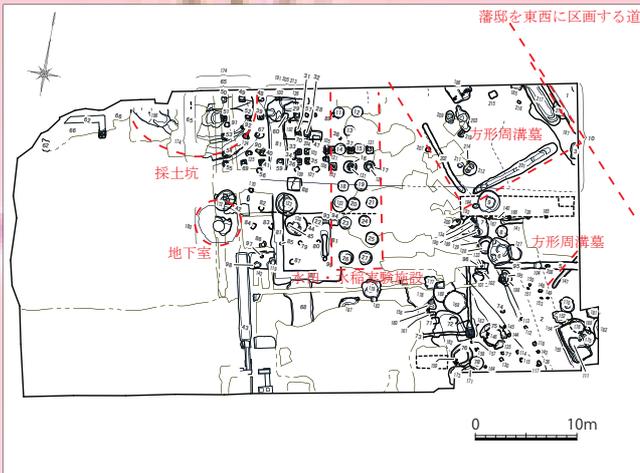
2010年7月29日 東京大学埋蔵文化財調査室

分生研・農学部総合研究棟建設予定地で2010年1月25日から3月31日までで行った発掘調査では、弥生時代から明治時代の遺構、昭和11（1936）年以降、農学部農芸化学科植物栄養・肥料学研究室管理地で行われた水田・水稲試験施設（後に芝草試験施設）、温室A・B棟基礎を含め、219遺構を検出した。確認された生活面はA～Fの6面で各面の年代・時代は以下である。

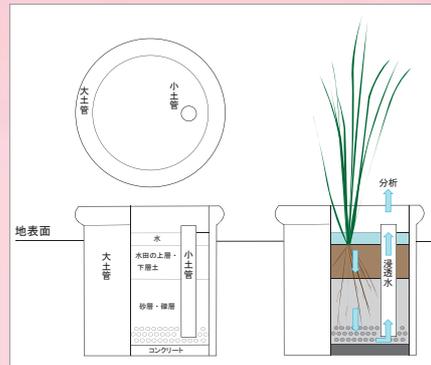
- A：明治時代～現在 堀田邸・農学部実験施設
- B・C：～明治21（1887）年頃まで
- D：水戸藩駒込邸 文政9（1826）年以降
- E：水戸藩駒込邸 文政9（1826）年以前
- F：江戸時代以前 弥生時代

浅野地区と浅野地区西側に建設された警視庁射的場（明治10（1877）年開場、同年2月開戦の西南戦争に派遣された警察関係者の小銃演習が行われた。戦争後は東京共同射的会社射的場となる。）の埋め立てに伴い、調査地点周辺が1m以上削平されたことが予想されたため、当初は遺跡の破壊が予想されたが、D面では文政9（1826）年の絵図に描かれた藩邸を東西に区画する切り通し状の道、地下室、E面では絵図以前の建物跡、採土坑、地下室、貯水槽が良好な状態で検出した。江戸時代以前の遺構では、埋没谷部分で弥生時代の方形周溝墓2基を検出した。検出した方形周溝墓は一部が調査区外のため全体の大きさは不明であるが、検出状況から4条の単独の溝で埋葬施設を囲んだ形式と考えられる。残念ながら明治時代の削平によって墓の上面が削平され、遺体が埋葬された施設と供えられた土器は失われていたが、埋没谷が調査地点から浅野地区武田先端知ビルまでのびていることが確認され、方形周溝墓はこの谷に沿って分布していることが確認できた。また、調査地点は平坦に削平されたため傾斜は不明であったが、方形周溝墓の検出状況から旧地形は東側に傾斜し、傾斜角度は少なくとも5度であることが確認された。調査で得られた資料は現在、駒場リサーチキャンパスで収蔵、報告者作成のための整理作業を行っている。

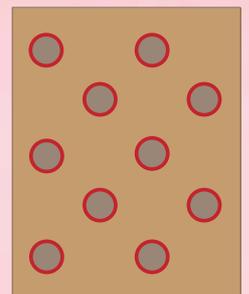
2010年7月29日から8月11日まで分生研・農学部総合研究棟の追加工事に伴う埋蔵文化財調査を行います。ご理解ご協力をお願いいたします。



分生研・農学部総合研究棟地点平面図



農学部農芸化学科植物栄養・肥料学研究室管理地 水田・水稲試験施設 断面・配置図（熊澤喜久雄氏作成資料より作成）



上が北



『向陵彌生町舊水戸邸絵図面』文政9（1826）年（個人蔵）



水田・水稲試験施設検出状況



水田・水稲試験施設配置状況



採土坑（E面）



地下室（D面）



農学部より浅野地区を望む